

▼参考Ⅱ文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査」の分析による「いい子どもが育つ」都道府県ランキング（株式会社 共立総合研究所）

文部科学省が実施している調査を（株）共立総合研究所が分析し公表する「いい子どもが育つ」都道府県ランキングによると、過去3回の調査で、宮崎県が総合1位に2回輝いています。

このランキングは、生活習慣や学習環境などに関する質問の回答結果を基に「いい子どもが育つ」ための土壌が備わっているかを評価するもの。平成25年度の調査では、11分野中、「家庭」、「地域」、「学校生活」、「学習意欲」の4分野で宮崎県が1位となりました。

小林市も、評価は極めて高く、特に生活習慣、家庭や人格に関する設問は、全国、そして県平均を上回るものが多くありました。

今月号では、中でも私たちに身近な「家庭」と「地域」にスポットを当て、「いい子どもが育つ」土壌とは何か、そしてその価値を改めて考えてみます。

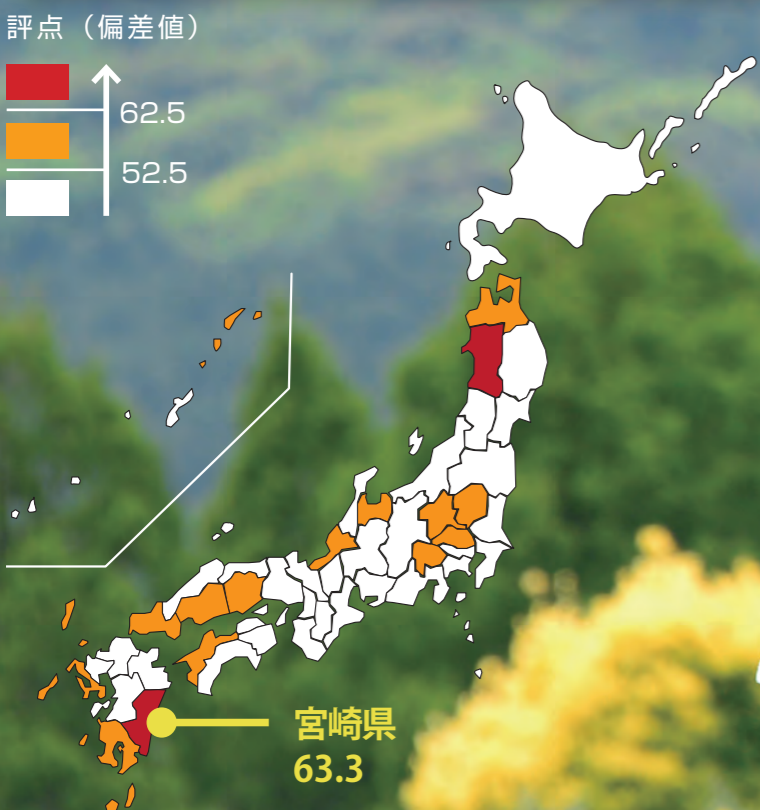
全国ランキングで、過去2回1位の宮崎県

家庭力×地域力

特集 「いい子どもが育つ」都道府県ランキングを考察

いいのでは「普通」のことなのに、全国から見ると「すごい」ことがあるんです。どうやら、小林市は全国でもトップ水準で「いい子どもが育つ」まち、とごうのです。さて……

平成25年度調査～総合評価～



過去3回の順位～総合評価～

順位	平成25年度	前回	前々回
1	秋田県	宮崎県	宮崎県
2	宮崎県	秋田県	山梨県
3	山梨県	山梨県	鹿児島県
4	埼玉県	栃木県	山口県
5	広島県(4位)	鹿児島県	長崎県



「両親にボーナスを」
夢は、親と同じ酪農家

農畜産が基幹産業の小林市では、畑や畜舎が子どもの遊び場であったり、仕事の手伝いをしていく風景を見かけることがあります。永久津で酪農を営む加藤家の二男汰暉くんも家業の手伝いをする小学6年生。「牛はかわいいし、お父さんとお母さんを助けたいから」



農畜産業の舞台の裏には **事例②仕事の手伝い**



台所に立って学ぶもの **事例①弁当の日**



「親元を離れたときのために、ひとりで食事の準備ができるようになってほしいですね」。そう話すのは、真方に住む斉藤康子さん。小林に通う颯佑くん（5年）、匡佑くん（3年）と楓ちゃん（3歳）のお母さんです。「一緒にご飯を作ることありますが、宿

2つの事例から “いい子どもが育つ”

背景を探る

家庭編

子どもにとって成長の礎となる「家庭」。2つの事例から、家庭で育まれるものを再確認します

と父康博さんの指導の下、牛の世話に日々汗を流しています。将来の夢は酪農家。「牛乳をたくさん売りたい。そして、お父さんとお母さんにボーナスをあげられるように頑張りたい」と話しています。

夢を持つだけでなく、叶える力と家族の理解

夢を叶えるための道筋もしっかりと立てている汰暉



大の動物好きで、大きな牛にも物怖じすることなく触る。「兄弟の中でも一番やさしい」という汰暉くんは家事も率先して手伝っている。



メニューを考え、買い物をし、作っておいしく食べるだけでは終わらない。家に帰って弁当の箱を洗うまでが「弁当の日」。

題として自分の力で弁当を作る「弁当の日」は、いい機会になっています。

弁当の日や家の手伝いで学ぶ「生きる力」

「弁当の日」とは、子どもが自分で弁当を作って学校に持っていくという取り組み。メニューを決め、調理や箱に詰めるのも自分で行います。食べ物や家族への感謝、「生きる力」につな

くん。「酪農家になるには、牛の育て方を勉強しないとイケないので、農業高校に入って、牛のことを詳しく学びたい。そして、スポーツで体を鍛えて、牛に負けない力をつけたい」。母京美さんも「本人がしたいということであれば、夢を後押ししていきたい」と応援。基幹産業を支える次世代の夢とチカラが、家庭の中で日々育まれています。

がるとして、県ではこの「弁当の日」を推進。市でもいち早く全小中学校で取り組みを始めました。

弁当づくりにも慣れてきた颯佑くんは、お手伝いも積極的。「ご飯の時には、いつも箸や皿を運びます。お風呂も洗ったり、洗濯ものを入れたり」。手伝いや弁当の日を重ねることで、家庭の中で「生きる力」が磨かれているようです。



母の佐藤愛さんとすずちゃん（三松小3年）

すきすき。はずかしこい、やってみると楽しいです。

知ってた？

こんな取り組みも

親子で抱き合う宿題!! すきすきバレンタイン

三松小では、1日1回1分間、家族で抱き合うという宿題が出される期間があります。その名も「すきすきバレンタイン週間」。

親子のスキンシップやコミュニケーションを促すために、毎年2月に全学年で行われています。宿題のプリントには1週間分のマスがあり、できた日は○、できなかった日は×をつけ、児童と親が感想を書いて学校に提出します。年に1回のスキンシップ。皆さんも挑戦してみてください！

ここがすごい!

家の人（兄弟姉妹除く）と普段（月～金曜）、夕食を一緒に食べている。

宮崎県 **4** 位

1位 島根県、2位 長野県、3位 山梨県、5位 秋田県

分野「家庭」の設問と順位を紹介

家の人（兄弟姉妹除く）と学校での出来事について話している。

宮崎県 **1** 位

2位 秋田県、3位 山梨県、4位 長崎県、5位 山口県

家の手伝いをよくしている。

宮崎県 **1** 位

2位 鹿児島県、3位 宮城県、4位 茨城県、岡山県

手伝いをしてみると、お母さんの大変さが分かります。



奥田悠人くん（三松小6年）

寺子屋で勉強を習いながら談笑をかわす児童と住民（写真右）。放課後、「茶飲ん場」に顔を出す児童。地域に顔見知りが増えていく（写真下）。



前田産業の工場を見学。丸太から製品に加工されていく過程をクイズ交じりで学んだ（写真左）。“親父”の指導で餅をつく児童ら（写真下）。



小学校が地域の交流拠点に

事例②西小林小学校

地元企業や親父が先生に

事例①三松小学校

6月、西小林小内に住民がお茶を飲みながら談笑できる「茶飲ん場」と放課後に住民が児童の勉強をみる「寺子屋」が同時オープンしました。どちらも月1回同日に開設されており、「茶飲ん場」は校舎1階生活科室、「寺子屋」は図書室を活用。「茶飲ん場」には地

茶飲ん場と寺子屋で、児童と住民が交流

2つの事例から “いい子どもが育つ”

背景を探る

地域編

子どもの成長の過程で、社会性が養われる大きな要因となるのが“地域との関わり”。2つの小学校を例に、子どもと地域の関係を見直します。

地元企業との関わりで就業意識を育む

「地元こんな企業があったなんて」、「木を大切にしようと思った」。三松小3年2組が行った地元企業訪問。前田産業（前田弘志代表取締役）の工場を見学した児童たちは木工・製材の現場を肌で感じ、感想を口にしました。三松小では、年1回保護者が企画するレクレーションを学

域の高齢者が訪れ、婦人会のメンバーらが準備したお茶や漬物などを食べながら談笑しています。ときには休み時間の児童が顔を出すことも。あやとりやお手玉などで遊びながら交流が行われています。

子どもだけじゃない。お年寄りも元気に

放課後になると、児童らは「寺子屋」に立ち寄った住民に勉強を教わります。これらを企画するにつけばまちづくり協議会の青少年育成・コミュニティ部会（なかぎと）中里みき部会長は「地域の子どもは地域で育てることが大切。学校に来て子どもと接することで、お年寄りの方々にも元気になってほしい」と話しています。



また三松小で特徴的な取り組みが、児童の父親たちでつくる「親父学級」。この親父学級主催の田植え、稲刈り、餅つきやイルミネーションの飾り付けが毎年恒例となっています。これらのイベントには、熟年の技を持った地元住民らも参加。子どもたちと交流し、昔ながらの知恵や技術を体験を通して教えています。

恒例の田植えや餅つきは、地元の親父が先生

級ごとに実施。企業見学もその一環です。企画を行った保護者は「企業見学は、キャリア教育や地域を知る機会にもなる。こういったことができるのも、地元の理解・協力があればこそ」と話していました。

11月3日の須木ほぜまつりで発表します。まつりに向けて猛練習中！ぜひ見に来てください！



麓地区の皆さん

須木区では、子どもたちが夏休みの登校日に公民館に出向き、住民と一緒に地域の課題を解決する「須木ふるさとプロジェクト」が開催されています。今年も、各地で清掃活動、スポーツや郷土芸能の練習などが行われました。麓地区では、地区の伝統芸能「剣舞一の谷」の継承をテーマに活動。小中学生15人が、保存会メンバーから踊りや太鼓の叩き方などを教わりました。

知ってた？

地域課題を解決。須木ふるさとプロジェクト

こんな取り組みも

ここがすごい！

年上や年下の友だちといっしょに遊んだり、勉強したりすることがある。

宮崎県 **1** 位

2位 広島県、3位 長崎県、4位 大分県、5位 奈良県

分野「地域」の設問と順位を紹介

地域の大人（学校や塾・習いごとの先生を除く）から褒められたことがある。

宮崎県 **1** 位

2位 大分県、3位 奈良県、4位 広島県、5位 埼玉県

近所の人にあつたときは、あいさつをしている。

宮崎県 **1** 位

2位 秋田県、3位 山口県、4位 佐賀県、鹿児島県

元気にあいさつすると自分も元気になります。



右から松元美空さん、神之園京介くん、有尾陽菜さん、（永久津小6年）



教育長に聴く

●インタビュー 中屋敷史生 教育長

市の現状と方針を知り、考える。家庭、地域、学校の役割

「学力」ではなく「育ちの質」に注目

現在の教育は「知・徳・体」を総合した「生きる力」の育成を重要としています。が、「知」に当たる「学力面」のみが注目されがちです。このランキングを公表して

いる(株)共立合研究所は、生活習慣、道徳や意欲など「子どもの育ちの質」に注目し、分析しており、非常に面白い視点だと思っています。

県平均よりも上回る生活習慣、道徳や意欲

このランキングは、ある一部分を切り取ったものではなく、宮崎県の全県に誇れる家庭や地域のすばらしさを、具体的な数値

として実感できるものだと考えています。小林市の結果を見てみると、「毎日同じ時刻に起きている」、「家の人と普段夕食を一緒に食べている」という割合が、全国平均に比べ非常に高

く、宮崎県の平均よりも上回っています。「学校のきまりを守る」、「人の役に立つ人間になりたい」、「将来の夢を持っている」といった道徳や意志・人格に関する設問の割合も非常に高いことが分かりました。

全国に誇れる家庭、地域の教育力 その力とニーズを各学校へ反映

す。それが、市民全体で、高いレベルで行われていることは、小林の財産です。自然にも、人にも、地域にも恵まれた最高の環境の中で育てられていることを、子どもたちにも誇りに感じてもらいたいと思います。

自然、人、地域に恵まれた環境を誇りに

家庭や地域での教育力は、時代がいくら変わっても大切にしていかなければならない「不易」の教育で

協働の学校づくりで学校を地域の拠点に

また、昨年度から教育、学校づくりに保護者と地域のニーズを反映させるため「コミュニティ・スクール」

を全小中学校へ導入しました。学習活動や環境整備を支援する「学校支援ボランティア」も小林の教育に大きな力を発揮しています。今後も、地域と一体となりながら教育に力を注いでいきたいと考えています。

6年生では、リーダーに必要なことなどを学んでいます。



谷本遥菜さん (小林小6年)

小中一貫で生き方教育 市独自の「こすもす科」

地域連携型の小中一貫教育に取り組む小林市では、小中学校の9年間をとおして生き方教育を学ぶ「こすもす科」を全小中学校の授業に組み込んでいます。

心身の発達段階に応じて教科書は4種類あり、掲載内容は「箸や鉛筆の持ち方」などから、「コミュニケーション能力や地域貢献に関すること」までさまざま。

全国的にもあまり例を見ない市独自の教科で、市民に必要とされる資質や能力を身に付け、自分や郷土に対して誇りをもって生きていく人間の形成を目指すために組まれています。

家庭力×地域力 「いい子が育つ」 協力して育み、 協育力+共育力 共に成長する



全国1位の「学校生活」と「学習意欲・習慣」

今回の特集で、詳しく紹介はできませんでしたが、「家庭」と「地域」以外にも、宮崎県は「学校生活」、「学習意欲・習慣」の分野でも全国1位でした。

特に評価が高かった設問は、「学校に行くのが楽しい(1位)」、「学校で友達に会うのが楽しい(1位)」、「算数の勉強が好き(1位)」、「読書が好き(1

位)」、「国語の勉強が好き(4位)」、「学校の授業時間以外に、普段1日あたり1時間以上勉強をしている(1位)」など。

「学校生活」や「学習意欲・習慣」は、子どもたちの学力向上や生きる力を身につける上で必要なことであり、市でも強みに推進しています。しかし、子どもたちは学校だけで育ち、学び、大人になっていくわけではなく、家庭や地域で、夢を育んだり、感謝の心や社

会性を身に着けたりと、多くのことを学んでいます。学校、地域、家庭が協力し、よりよい環境へ

今回の調査結果で、全国に誇れるほどの家庭と地域の価値を再確認できたのは大きなことです。しかし、子どもたちのために、次のステップに進むことも必要です。それは、学校と家庭、そして地域がより力を合わせることで、この小林市に全国一、そし

てオンリーワンの教育環境が整う、そんな未来像が描けます。そのために、わたしたち一人一人ができることは何でしょうか。親として、地域の一員として、いっしょに汗をかき、悩みながら、子どもに向き合ってみる。そういったことから、皆で始めてみませんか。

子育てや教育は、家庭や地域を成長させる

「親は子どもと一緒に育つて、共に成長して親に

なっていく」と言われます。これは、家庭や地域にも当てはまることかもしれません。例えば「親父学級」「寺子屋」や「須木ふるさとプロジェクト」。その現場には、親や地域の人の笑顔が満ちています。子どもの教育の場がまちの絆を深め、にぎわいとなっています。

親として、地域の一員として、多くの人の手で小林の子どもを育てる。それが家庭、地域、そしてまちの成長にもつながるはずですよ。